

# 知的障害教育におけるキャリア教育の在り方に関する研究(1)

—ライフキャリアの視点による「キャリア発達段階・内容表(試案)」及び観点解説の改訂—

○木村宣孝\* 菊地一文 大崎博史 井上昌士 猪子秀太郎 小澤至賢 涌井恵 柴田琢磨\*\* 渡部英治\*\*\* 木本恭嗣\*\*\*\*  
(独立行政法人国立特別支援教育総合研究所)(北海道伊達高等養護学校\*)  
(北海道星置養護学校\*\*) (島根県立松江清心養護学校\*\*\*) (静岡県立浜名特別支援学校\*\*\*\*)

KEY WORDS: 知的障害 キャリア教育 ライフキャリア

## 1 研究の背景と目的

中央教育審議会答申「初等中等教育と高等学校との接続について(H11.12)」以来、キャリア教育に関連した様々な施策が進められ、教育改革の重点行動計画に位置付けられた。特別支援教育においては、従来からキャリア教育の意図する部分を重視してきた経緯があるが、改めて指導内容等を見直す枠組みとして、知的障害のある児童生徒の「キャリア発達段階・内容表(試案)」(国立特別支援教育総合研究所, 2008)が提案され、これらの知見を基に各地での取組が進められている。また特別支援学校高等部学習指導要領(H21.3告示)に「キャリア教育」の文言が明記され、特別支援教育においても早期からの組織的な取組によるキャリア教育の推進が求められている。

これらの背景を踏まえ、本研究は、①幅広い実態の児童生徒への適用を視野に入れ、ライフキャリアの視点から本試案の検証及び改善を行うこと、②学校現場におけるキャリア教育の推進及び充実のために、本試案の活用のためのツールの開発及びツールの活用に基づく実践モデルの提案等を目的とした。本報告では、本試案及び観点解説の改訂の概要について報告する。

## 2 「キャリア発達段階・内容表(試案)」作成の経緯

キャリア発達段階・内容表(試案)は、進路指導の構造化のための概念モデル(仙崎ら, 1998)で示された4能力領域に基づき、小学部13、中学部17、高等部18の観点で構成されている。各観点及びその解説は、①国立教育政策研究所生徒指導研究センター(2002)による「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み(例)」、②Wehman & Fregel(2004)による「機能的カリキュラム」、③学習指導要領解説における知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科の内容、④全国6校の研究協力機関による実践提供等に基づいて作成された。

## 3 「キャリア発達段階・内容表(試案)」改訂の実際

### (1) 改訂の方法

本試案の改訂に当たって、以下の方法で改訂作業を行った。

- ・研究スタッフによるBS法によるワークショップ
- ・全国6校の研究協力機関の実践等を基にした意見集約
- ・本研究にかかわるWebサイトの開設及びWebサイトを通しての意見集約
- ・先行研究の分析及び国内における他のキャリア教育に関する文献研究
- ・アメリカにおける障害のある子どもの「キャリア教育」「自己決定」等に関する文献研究
- ・新学習指導要領解説等の記述内容の検討、等

### (2) 本試案の課題

前述の方法により、本試案の主な課題として、以下の事項が挙げられた。

- ・観点解説の内容は、職業生活に限定しているものが多く、児童生徒の実態によっては示されている内容を採り上げることが難しい。

- ・観点解説の内容に各学部で偏りがある。特に小学部の観点解説が不足している。
- ・観点解説に指導事例があると分かりやすい。
- ・中学部・高等部のみにある観点で、小学部においても適用可能なものがある。
- ・内容が似ていて区別が難しい観点や枝分かれしていて分かりにくい観点がある。
- ・「スキル」「能力」「育てたい力」等、似たような用語があり、整理する必要がある。

### (3) 改訂のポイント

上記課題への対応として、各観点について以下の改訂を行った。

- ・人間関係形成能力「自己理解」(中・高)と「他者理解」(中・高)の統合
  - ・情報活用能力「社会のきまり(小・中)」の名称変更
  - ・情報活用能力「金銭の管理(中)」の名称変更
  - ・情報活用能力「役割の理解と分担」(小)の名称変更
  - ・将来設計能力「役割の理解と実行(中・高)」の他観点との統合
  - ・将来設計能力「やりがい」(小)の新設
  - ・意思決定能力「選択」(小)及び「選択(決定、責任)」(中・高)の名称変更
  - ・意思決定能力「自己調整」(高)の範囲を(中・高)に変更
- その他、文言の整理や解説の充実、指導事例の掲載等、挙げられた課題を踏まえて改訂作業を行った。各観点は、小学部14、中学部15、高等部16観点となり、4能力領域は各4系列に整理統合された。また、本試案の名称を新たに「キャリアプランニング・マトリックス(試案)」とした。

## 4 今後の課題

本試案の活用に当たっては、これまで具体的な活用方策や活用当たりの留意事項が示されていなかったため一部で混乱が見られた課題を踏まえ、今回の改訂では留意事項を明示した。また、具体的な活用方策として、キャリア教育の視点から教育課程及び授業改善を図るための作業を進めるツールとして、新たに「単元における観点位置付けシート」「授業における観点位置付け・授業改善シート」「本人の願いを支えるシート」等を開発し、研究協力機関等において試行し評価を行った。今後、これらの具体的な作業を通しての検証と、取組によって得られた知見を基にした活発な議論が望まれる。

## 文献

国立特別支援教育総合研究所(2010) 知的障害教育におけるキャリア教育の在り方に関する研究 研究成果報告書。  
国立特別支援教育総合研究所(2008) 知的障害者の確かな就労を実現するための指導内容・方法に関する研究 研究成果報告書。

(KIMURA Nobutaka, KIKUCHI Kazufumi, OSAKI Hirofumi, INOUE Masashi, INOKO Hidetaro, OZAWA Michimasa, WAKUI Megumi, SHIBATA Takuma, WATANABE Eiji, KIMOTO Yasushi)